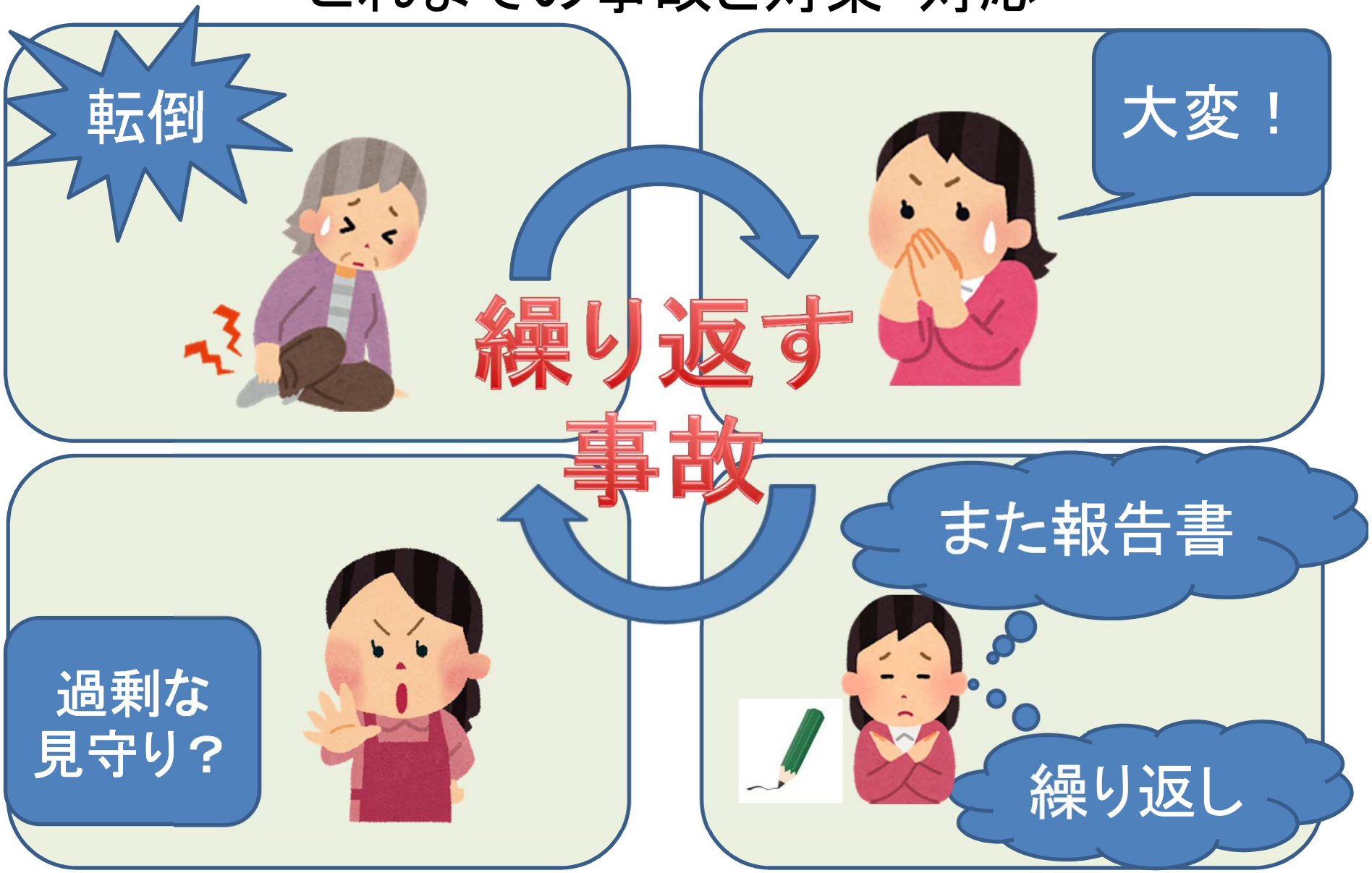
事故削減に向けた意識の変革

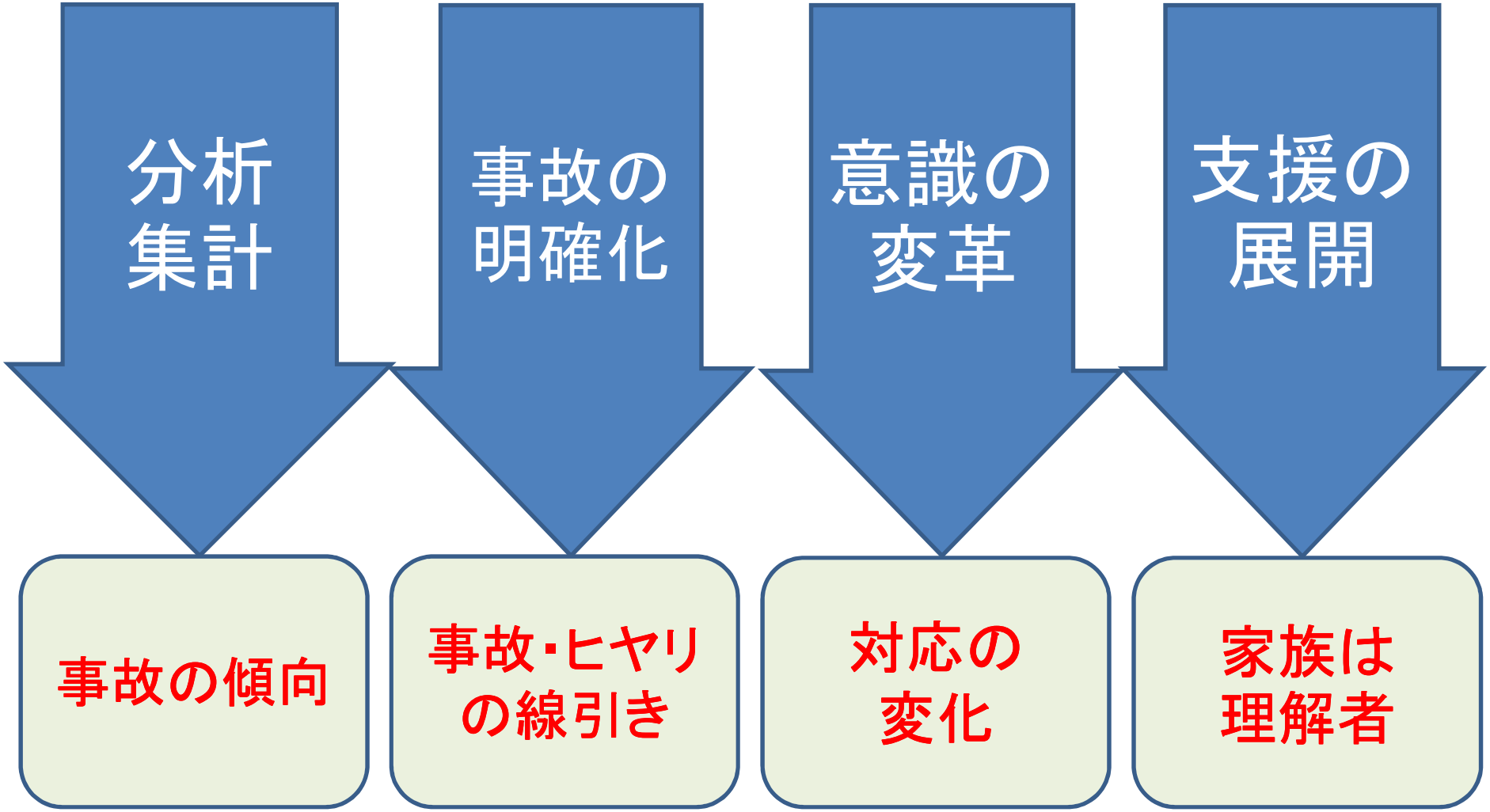
～危険回避の視点から自己実現の視点へ～

社会福祉法人　上越頸城福祉会
障害者支援施設　さいはま園
生活支援員　森永　貴洋

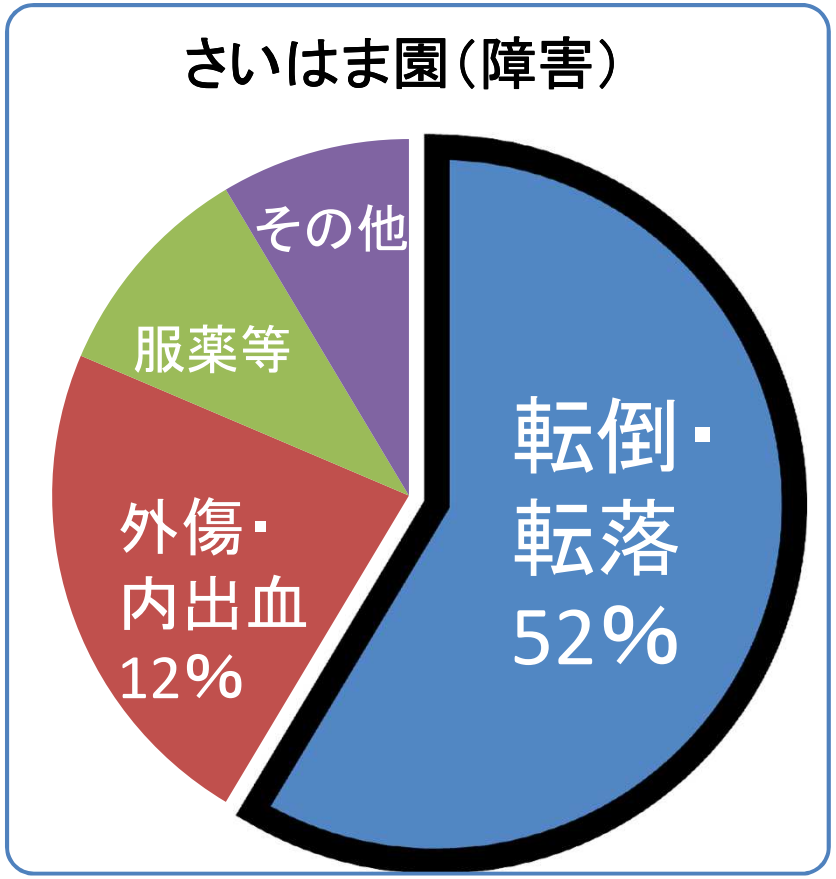
実践の目的・ねらい
～これまでの事故と対策・対応～

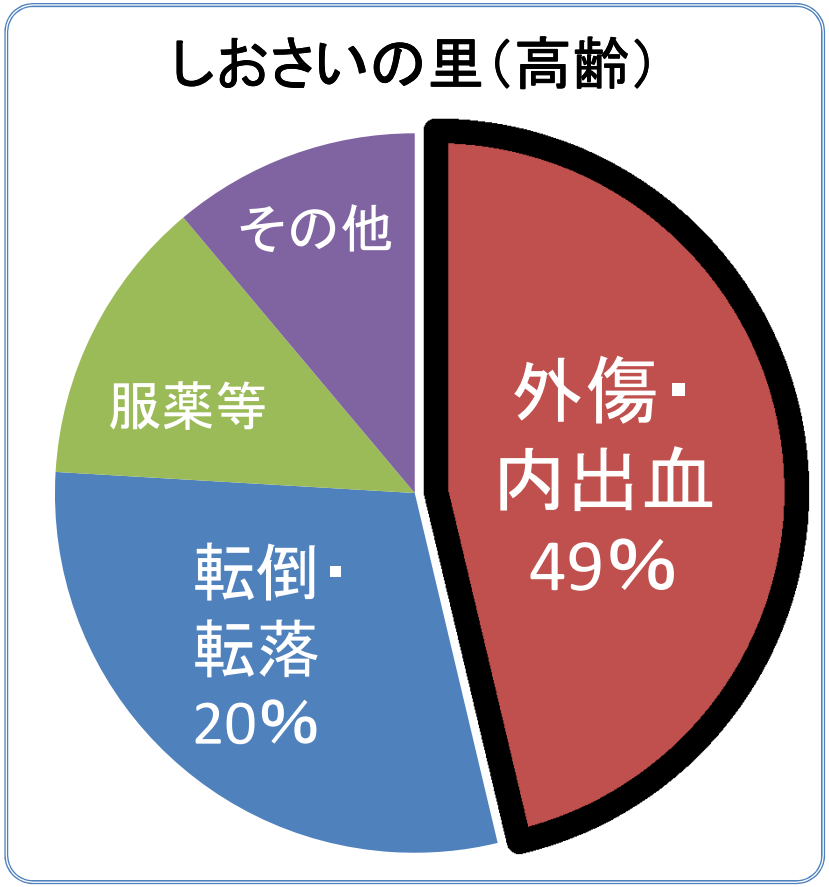


実践方法・取り組みについて



障害者特有の事故がそこにはあった





障害者特有の事故がそこにはあった

～当施設の身体拘束の捉え方～

身体拘束の紐・ベルト

４点柵

コールマット

居室隔離

ミトン・つなぎ服

事故・ヒヤリの線引き

ヒヤリハット

・変わりなく過せる

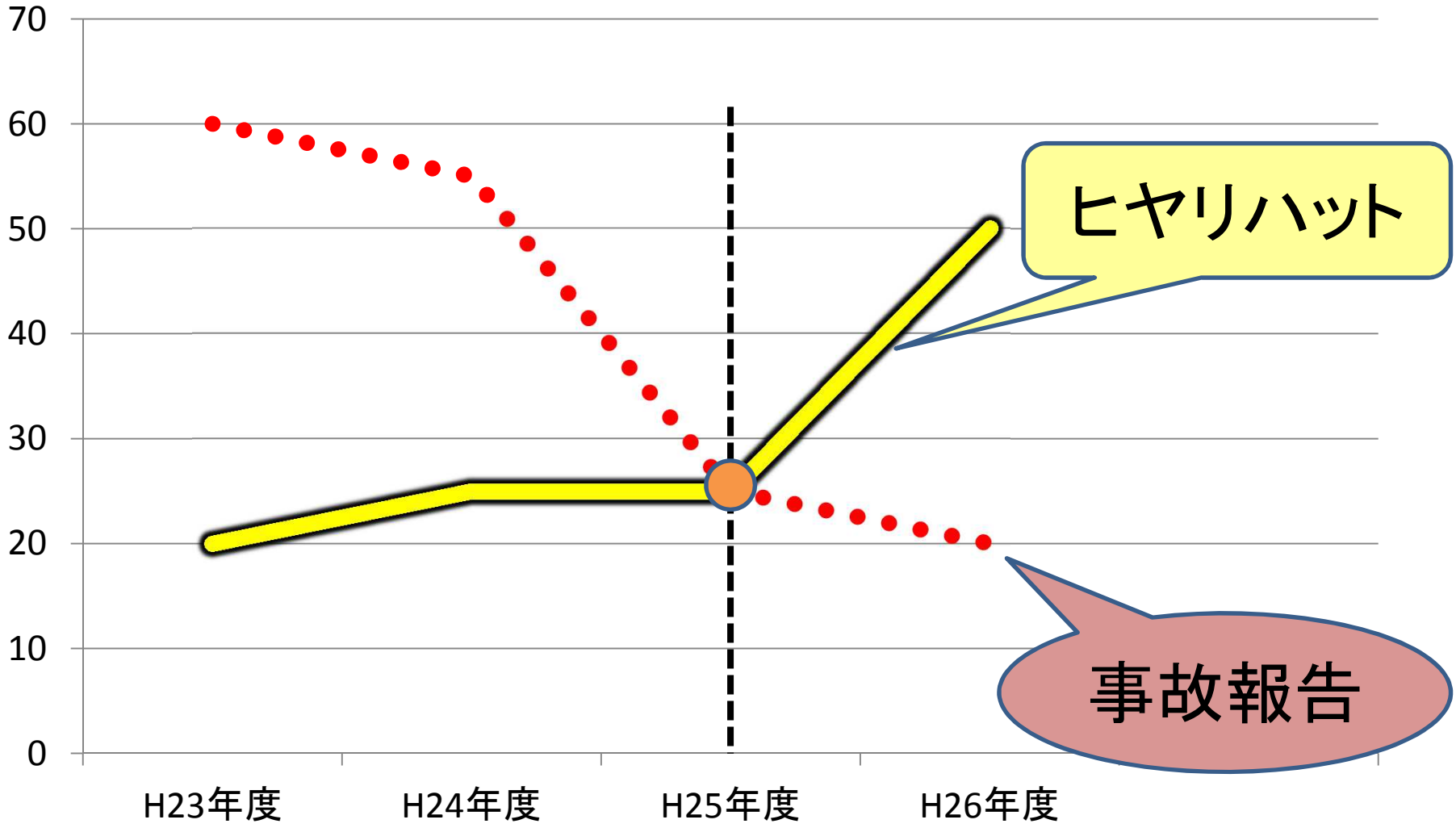
・内出血、外傷無し

事故報告書

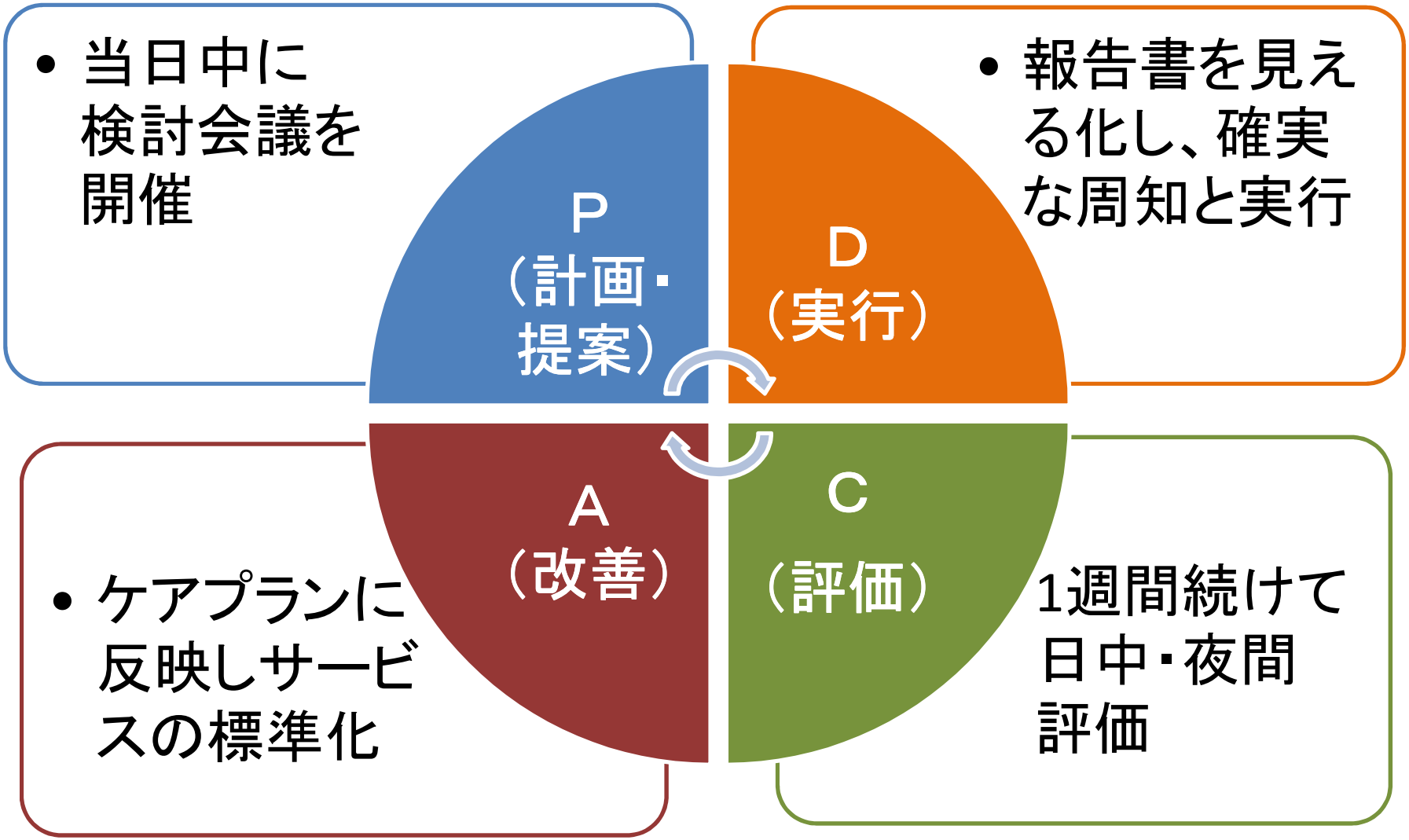
・痛みが出た

・処置を受けた

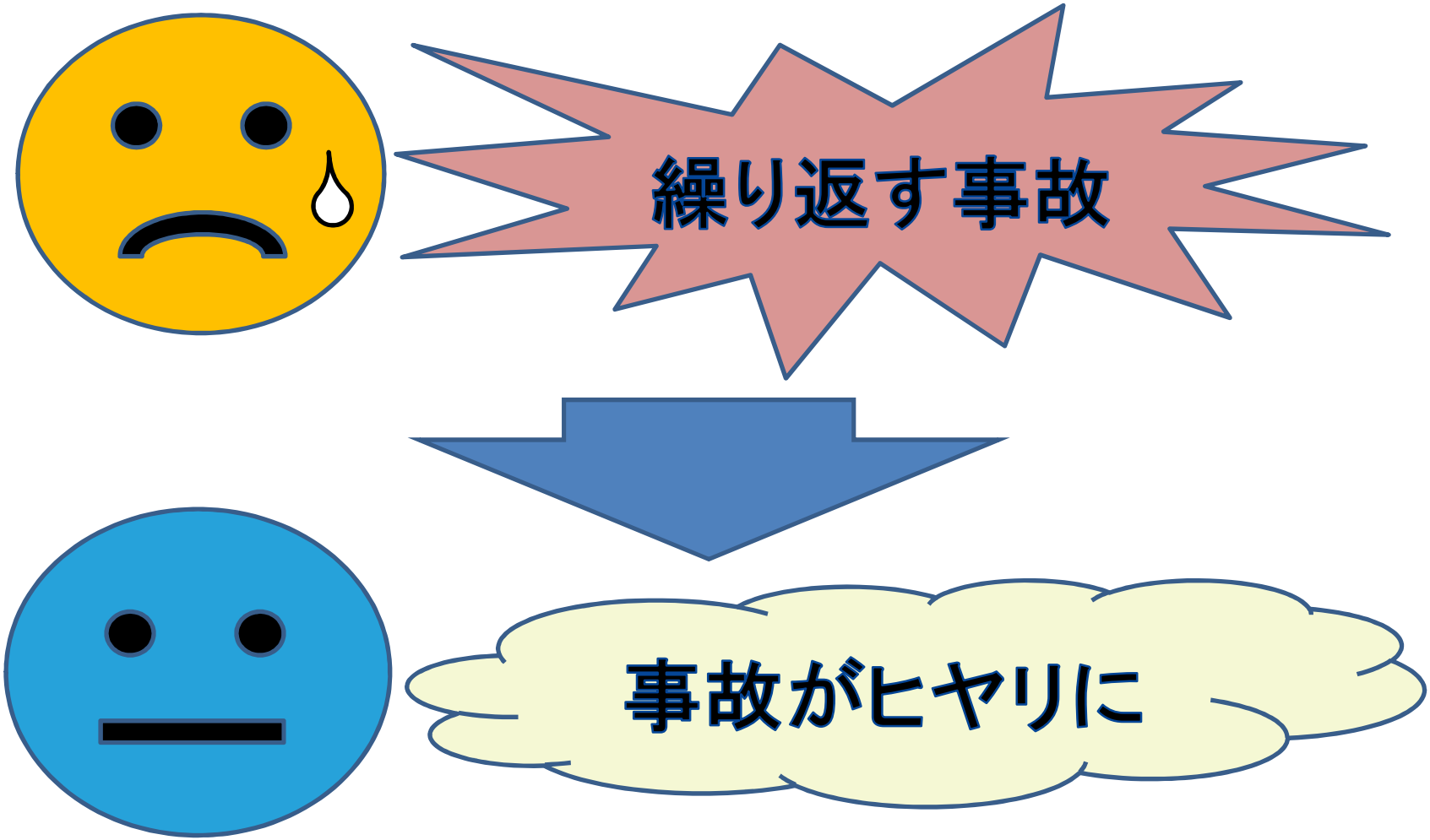
『事故』と『ヒヤリ』がひっくり返った！！



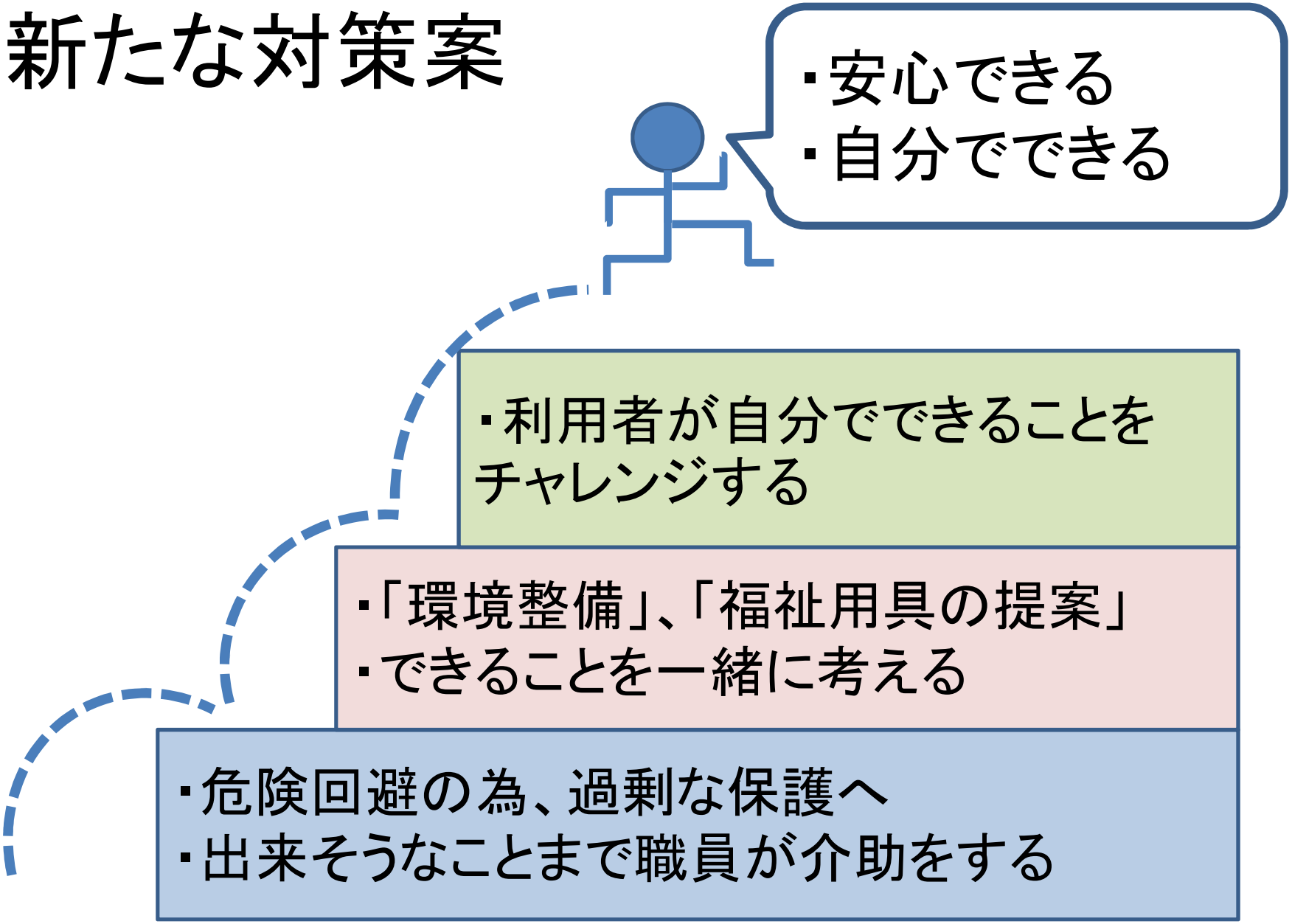
事故報告・ヒヤリハットへの対応



事例検討による対応の変化



新たな対策案


・安心できる
・自分でできる
・利用者が自分でできることをチャレンジする
・「環境整備」、「福祉用具の提案」
・できることを一緒に考える
・危険回避の為、過剰な保護へ
・出来そうなことまで職員が介助をする

家族とのパートナーシップ

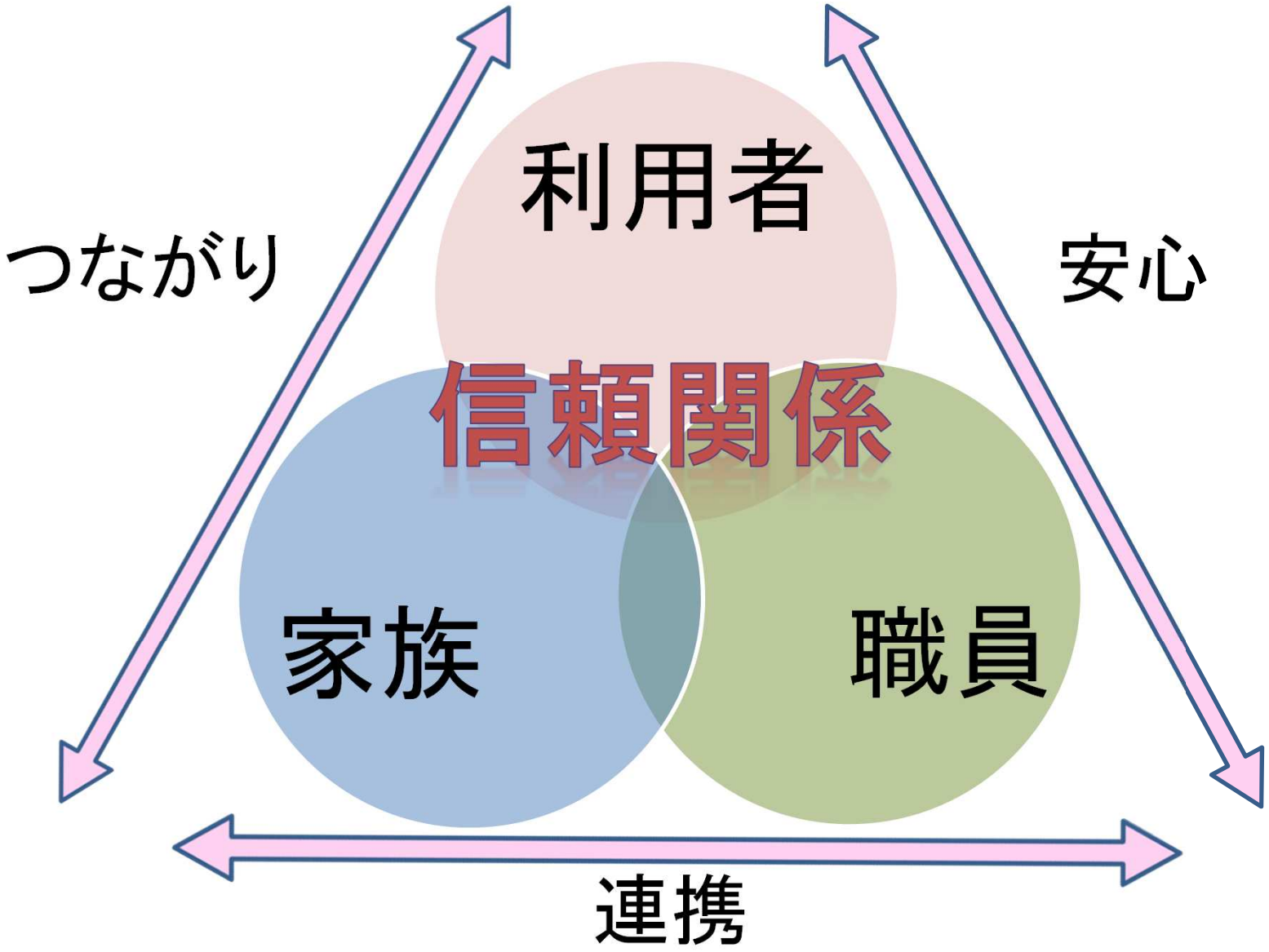
日常、ケア、リスクなどの情報を伝える。

家族がケアに対し理解できることで協力を得られる。

結果

単純に事故と考えない

生活にはリスクがある

情報の共有

最後に・・・